

河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野（砂防）
令和4年度採択テーマ
事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	総合 評価
寒冷地における土砂生産・流出特性に気候予測データの空間解像度の与える影響の分析 (研究期間：R4年度～R6年度)	広島大学大学院先進理工系科学研究科 准教授 井上卓也	A
<p><研究概要></p> <p>現在、アンサンブル気候予測データ d4PDF を用いた河川流量の将来変化に関する研究が全国各地で進められている。降雨の増加は山地流域からの流出土砂量を増加させ、土砂・洪水氾濫の増加に繋がることが予想される。流出土砂量を予測するためには、斜面崩壊による土砂生産と生産された土砂の山地河道における移動の両方を考慮した計算を行う必要がある。本研究では、土砂生産・移動の両方を考慮した数値解析モデル(SiMHiS)を用い、気候変動による流出土砂量の変化を予測する。また、気候予測データの空間解像度が流出土砂量の予測精度に与える影響を分析する。</p>		
<p><事後評価コメント></p> <p>本研究では、凍結融解による土砂生産の現地調査、数値計算モデルを用いた流出土砂量に対する気候変動の影響分析、気候予測データの空間解像度が土砂生産に与える影響分析を実施する等、今後、気候変動を踏まえた砂防行政の検討への反映の観点から大いに評価出来る。</p> <p>今後は、北海道内の他流域のみならず、他の豪雪地帯への適用も視野に、砂防行政における活用が可能になるような検討を進めていただきたい。</p>		

※評価基準

- A：研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B：研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C：一定の研究成果があった
- D：研究成果があったとは言い難い